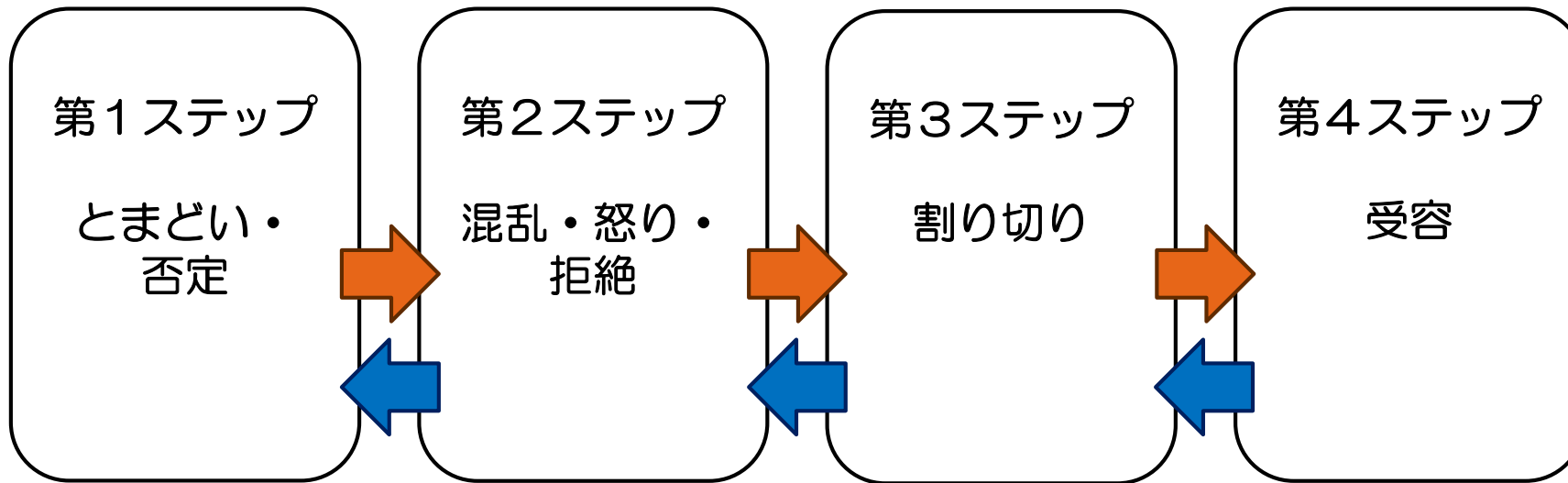


令和7年度 栃木市民特別講座
～まちぐるみで認知症高齢者を支える～

「認知症の方との関り方について」

チームオレンジSTAND BY YOU代表
山口 雅之

1, 認知症の方、家族が経験するステップ



※必ずこのとおりにステップを踏むとは限りません

2. 基本的な関わり方①

●基本姿勢●

認知症の方への対応の心得 “3つの「ない」”

- 1 驚かせない
- 2 急がせない
- 3 自尊心を傷つけない

2. 基本的な関わり方②

●具体的な対応の7つのポイント●

- 1 まずは見守る
- 2 余裕をもって対応する
- 3 声をかけるときは1人で
- 4 後ろから声をかけない
- 5 やさしい口調で
- 6 おだやかに、はっきりした話し方で
- 7 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

3. 地域活動を通じて経験するリアルな声!?

- 「わかってはいるんだけど…」
- 「つい感情的になっちゃうんだよ。」
- 「テキストみたいにはいかないよ…」



専門職として ≠ 家族として

「私も自信ありません、でも…」

【参考までに…】

樋口了一 「手紙～親愛なる子どもたちへ～」

《歌詞から抜粋》

年老いた私が、ある日、今までの私と違っていたとしても
どうかそのままの私のことを理解して欲しい

⋮

楽しいひと時に 私が思わず下着を濡らしてしまったり
お風呂に入るのをいやがるときには思い出して欲しい

あなたを追い回し 何度も着替えさせたり 様々な理由をつけて
いやがるあなたとお風呂に入った 懐かしい日のことを

⋮

4, 認知症の方の目線で考えると…

例) 「お金を持っていないんですけど!？」

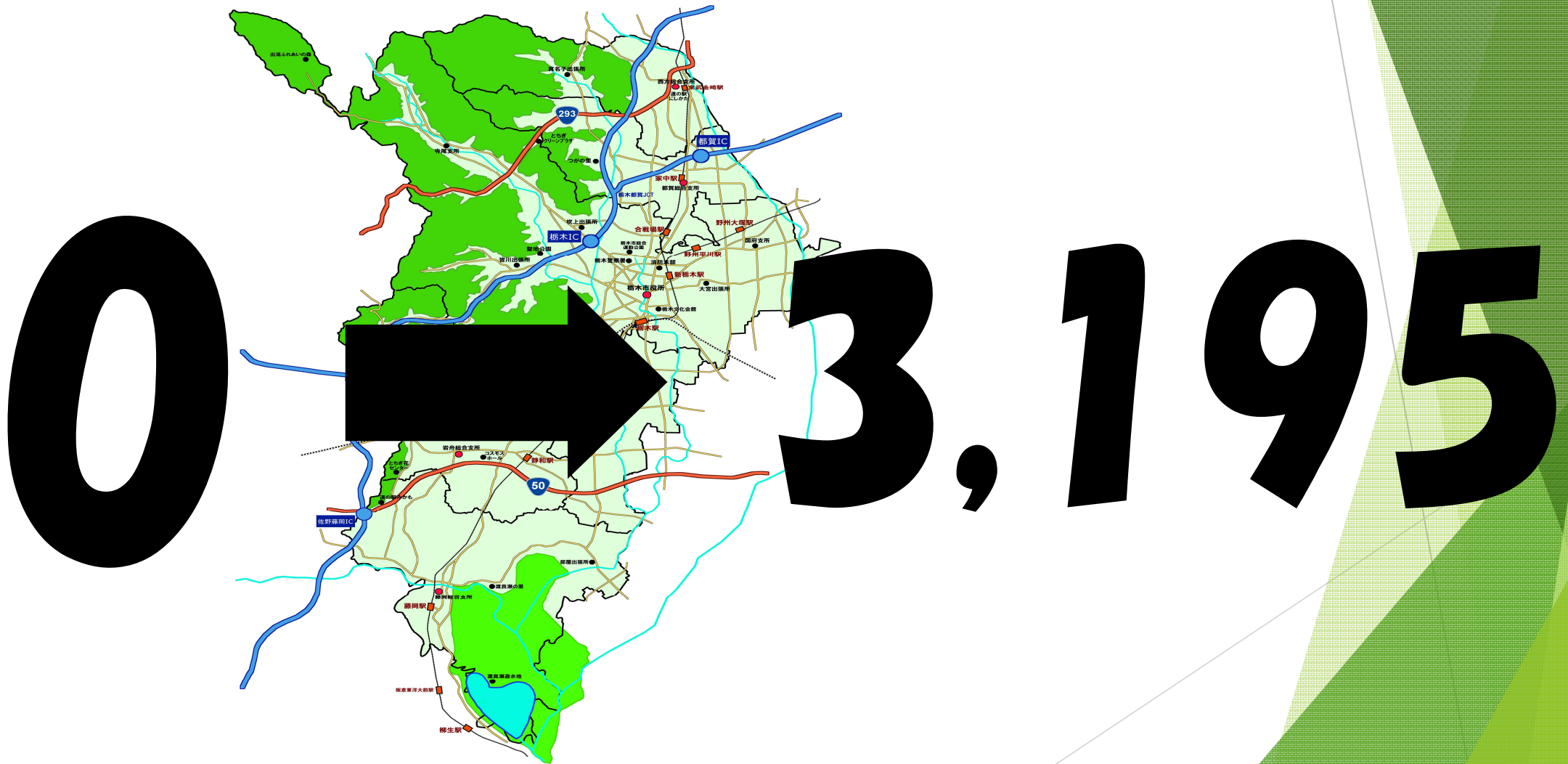
※見え方が変わると、関わり方も変わる!?

※元々の性格、考え方、行動すべてが認知症に
みえてしまう!?

5, 「認知症」を様々な視点で考えると…

- 当事者本人にとっては？
- 家族にとっては？
- 地域にとっては？

6, 認知症は地域をも変える！



7. 認知症の方のイメージ!?

《オレンジカフェのある場面》

※イメージしてください。

オレンジカフェでは、みんなで体操をします。地域の方がインストラクターとなり、いろいろな体操プログラムをします。参加者は、時折間違えたりしますが、楽しそうに参加しています。

8. 認知症普及啓発活動の効果

認知症に関する関心は高まってきたが…!?



MCI、初期の認知症の方のイメージ像
「正しく認知症を理解する」

※この段階は、支障なく生活できるので表面化しにくい。

9, 「新しい認知症観」とは？

「認知症基本法」 ※R6年1月施行

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になっても、一人ひとりができることや、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」を示した。

10. まとめ

- 認知症は、今のところ治る薬はありません。
- 認知症介護は、ゴールがみえません。
- 関わり方にも、正解がありません。



関わり方の大前提…、地域で「福祉力」をつける。

- 地域（多世代）で正しく認知症を理解する。
- 定期的に地域で認知症をテーマにする。



この積み重ねの先に…

- 認知症の方だけでなく、みんなが住みやすい地域になると思います。

ご清聴ありがとうございました。